

皆さん、おはようございます。今日は二つ話をします。

まず一つ目。「節目」についてです。

今日は2学期の終業式です。学校生活における節目です。

植物の竹の節は、竹の「しなやかな強さ」に欠くことのできないものだと言います。私たちも、しなやかに強く生きてゆくために、節目を大切にしたいと思います。節目の最たるものは正月でしょう。三年生はその暫く後に、高校卒業と進路実現という、もっと大きな節目が待っていますね。

「一年の計は元旦にあり」と言いますが、皆さんには、少しフライングして、今日を「節目」にして欲しいと思います。これまでのあり方を見つめ直し、これからのあり方を思い定める。そうすることで節目を強固にすることができます。

そして、考えたことを、できれば紙に書くなりして、今後の励みにしてほしいと思います。僕もかつて参考書の表紙裏に「俺は勝てる」と書きました。

ところで、三年生の皆さん、今恐らくみんなは不安で一杯だろうと思います。どうすれば本番で実力が発揮できるか。やりきったという思いを持つことが重要です。まず、これまで頑張ってきたことを振り返り、自分によく頑張ったと言ってあげてください。そして、残りの24日をどう過ごすかの計画を確認しましょう。

センター試験のときに、「この24日間やりきった」「自分の考えたことができた」と、思うことができれば、自信を持って本番は迎えられます。「人事は尽くした。あとは天命を待つだけだ。」という心境になれるかどうかです。

二つ目の話は、悲しみや苦しみは必ず癒える、癒やされるという話です。

今皆さんは青春のど真ん中。人生の中で最も多感なときです。

自分は一体何者なんだという根源的な不安感、悲しみを感じることもあるでしょう。また、現実的な問題として、例えば受験勉強のようにやってもやっても先が見えず、暗い長いトンネルの中にいるような焦りなどは、多くの人が感じているのではないのでしょうか。誰も自分のことはわかってくれないという孤独感もあるでしょう。

でも、根源的な悲しみは、残念ながら歳を取るに従って薄れていってしまいます。受験勉強のような現実的な不安や苦しみは、前を向いて、一歩ずつ、一つずつ、一問ずつ進めば、必ずトンネルを抜けることはできます。春の来ない冬はありません。

それでも苦しいとき、君たちの周りには、少なくとも何人かは、君たちが信頼するに足る友人が必ずいる、そして、僕たち教員がいる。決して一人だけではないということをお忘れしないで欲しいと思います。

皆さん一人ひとりにとって、来年が素晴らしい年になることを祈って、終業式の式辞とします。